

(対象事業：1. 地域の中核館として他館や他機関等と連携して行う事業)

事業名：とっとり江戸時代絵巻めぐり

事業者名：鳥取県ミュージアム・ネットワーク

連携事業館名：鳥取県立博物館
鳥取市歴史博物館、仁風閣、
渡辺美術館、鳥取民藝美術館、
荒木又右衛門遺品館（玄忠寺）

住所：鳥取市東町 2-124 鳥取県立博物館内

TEL：0857-26-8042

FAX：0857-26-8041

HPアドレス：hakubutsukan@pref.tottori.jp

①施設概要

平成15年12月18日、鳥取県内の博物館・美術館・資料館等が、公立・私立を問わず、相互連携を密にし、博物館等事業の普及発展を図ることを目的として設立。会長館、及び事務局は、鳥取県立博物館。

②事業の意図目的

鳥取市街地に立地する6つの博物館・美術館等が、鳥取の江戸時代をテーマとした特別展・企画展を同時期に開催し、併せて、6館が連携して、「学芸員が案内する城下町鳥取めぐり」・「城下町とっとり6館スタンプラリー」・「6館を巡るループバスの運行」を行い、城下町鳥取の歴史文化に対する理解と関心を高める。

③事業概要

〈展覧会〉

○鳥取県立博物館	特別展「鳥取藩32万石」	(10/16～11/14)
○鳥取市歴史博物館	特別展「大名たちの庭園」	(10/9～11/14)
○仁風閣	紙人形と麒麟獅子能面展	(10/1～10/31)
○渡辺美術館	特別展「鳥取藩絵師たち」	(10/16～11/14)
○鳥取民藝美術館	特別展「因伯の工藝－近世から現代へ」	(9/4～12/5)
○荒木又右衛門遺品館	特別展「荒木又右衛門の錦絵と瓦版」	(10/16～11/14)

〈連携事業〉

- 学芸員が案内する城下町鳥取めぐり
各博物館・美術館等を結ぶ6つのコースを、学芸員が解説しながら歩く。
- 城下町とっとり6館スタンプラリー
6館すべてに入館された方に、抽選で鳥取の地産地消費品をプレゼント。
- 6館を巡るループバスの運行
土・日曜日に、6館をまわる無料のループバスを運行。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（ポスター、パンフレットなど）
作成した報告書等
ビデオ（ な し ）
冊子（ 「とっとり江戸時代絵巻めぐり」 実施報告書 ）
その他（ な し ）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 28,615 人

内 訳

〈展覧会〉鳥取県立博物館 8048 人、鳥取市歴史博物館 7027 人、仁風閣 6231 人、
渡辺美術館 1386 人、鳥取民藝美術館 1028 人、荒木又右衛門遺品館 4097 人
〈連携事業〉鳥取めぐり 216 人、スタンプラリー 131 人（応募数）、ループバス 451 人

(1) 事業の実施状況について

〈各館の展覧会〉

○鳥取県立博物館 特別展「鳥取藩32万石」

江戸時代240年にわたって、現在の鳥取県の範囲を治めていた鳥取藩池田家の歴代藩主や、鳥取藩の政治・文化を総合的に紹介。

会 期 10月16日(土)～11月14日(日)(会期中休館日なし)

入館者 8,048人(うち一般6,054人、高校生569人、小中生1,312人、幼児113人)

○鳥取市歴史博物館 特別展「大名たちの庭園」

屏風・絵巻・図面など絵画的資料を中心に、江戸や国元に築造された江戸時代の「大名庭園」を復元。

会 期 10月9日(土)～11月14日(日)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・祝日の翌日

入館者 7,027人

○仁風閣 紙人形と麒麟獅子能面展

和紙人形創作グループ駒鳥会(代表:山本千恵子)の創った因幡東照宮の権現祭祀を再現した人形と、工芸家中山勘治氏の麒麟獅子頭・能面などの作品を展示。

会 期 10月1日(金)～10月31日(日)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・祝日の翌日

入館者 6,231人(うち一般5,467人、高校生36人、小中生473人、幼児255人)

○渡辺美術館 特別展「鳥取藩絵師たち」

土方稻嶺・黒田稻臯・片山楊谷・沖探容・沖一峨・根本幽峨など、渡辺美術館が誇る鳥取藩絵師の作品を一堂に展示。

会 期 10月16日(土)～11月14日(日) 休館日 毎週火曜日

入館者 1,386人

○鳥取民藝美術館 特別展「因伯の工芸―近世から現代へ」

絵絣、焼き物、木工、金工など、館蔵資料の優品を中心に、近世以降の因伯の工芸品を展示し、吉田璋也の新作民藝品なども含めて歴史の流れを紹介。

会 期 9月4日(土)～12月5日(日)

(休館日 毎週水曜日、祝日の場合は翌日)

入館者 1,028人

○荒木又右衛門遺品館(玄忠寺) 特別展「荒木又右衛門の錦絵と瓦版」

伊賀越え仇討ちで有名な荒木又右衛門の墓のある玄忠寺で、又右衛門に関する錦絵や瓦版の数々を特別公開。

会 期 10月16日(土)～11月14日(日) 会期中休館日なし

入館者 4,097人(このほか、玄忠寺檀家約400名が無料入館)

〈連携事業〉

- 学芸員が案内する城下町鳥取めぐり (参加者合計 216名)
各博物館・美術館等を結ぶ6つのコースを、学芸員が解説しながら巡る。
- 城下町とっとり6館スタンプ・ラリー (応募者総数 131名)
10月1日～11月30日の間に6館全てに入館された方に、抽選で鳥取の地産地消費品をプレゼント。
- 6館を巡るループバスの運行 (参加者合計 451名)
10月16日～11月14日の間の土・日曜日に、無料のループバスを運行。

(2) 地域との連携について …… 博物館以外の諸機関・団体による以下の事業と連携した。

①池田家墓所燈籠会

- 目 的 広く県民が史跡鳥取藩主池田家墓所に親しんでいただけるような機会を提供する。
- 開催日時 平成16年10月10日(日) 午後6時～8時
- 場 所 国史跡鳥取藩主池田家墓所(鳥取市国府町奥谷)
- 主 催 財団法人史跡鳥取藩主池田家墓所保存会
- 後 援 鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会、国府町教育委員会、因幡万葉歴史館
- 協 力 鳥取観光コンベンション協会、奥谷自治会、君司酒造株式会社
- 主な内容
 - ・燈籠会(灯入れ)
約270基の灯籠に順次灯を入れ、墓所全体に幻想的な雰囲気を作り出す。
 - ・伝統芸能の奉納等
篝火のつくりだす明かりの中、県指定無形民俗文化財「宇倍神社麒麟獅子舞」の上演、箏とフルートの演奏を行った。
- 参加人数 約200名

②第5回鳥取三十二万石お城まつり

- 目 的 国史跡鳥取城をテーマとした一大イベントとして、鳥取市の観光・文化の振興と、鳥取城復元に向けた市民意識の醸成を図る。
- 開催期日 平成16年10月16日(土)～17日(日)
- 概 要
 - 〈池田候時代行列〉
 - 日 時 10月16日(土) 13時～16時30分
 - 場 所 鳥取商工会議所～智頭街道～きなんせ広場～JR鳥取駅前～本通り～若桜街道～市役所前～県庁前～久松公園
 - 内 容 鳥取商工会議所青年部らによる大名行列や、樗谿神社権現祭の神輿の巡行、及び因幡の伝統芸能「麒麟獅子舞」「伝統和太鼓」「奴踊り」

〈お城まつり〉

- 日時・場所 10月16、17日(土、日) 10時～16時、久松公園一帯
- 主な内容 現代邦楽創作劇「鳥取城物語」の上演、いなば夢ステージの開催。

③麒麟獅子フェスタ'04 & 食の祭典

- 目 的 因幡の伝統・文化・食について理解を深め、共有することで地域に対する誇りを持ってもらう。
- 日時・場所 平成16年10月30日(土) 11時～16時、鳥取市久松公園
- 主 催 (社)鳥取青年会議所
- 内 容 麒麟獅子を中心とした伝統芸能の披露と、地域の特色ある食品の販売。

④第3回城下町はな＊はな鳥取回廊事業

- 目 的 鳥取中心市街地への来訪者に対し、まちの文化や歴史を感じ、楽しんで頂くとともに、花アートを通して人と人が交流できる場を提供する。
- 主な内容 花アート制作交流会(7月3日・8月29日)
作品展示(11月3日～7日、県民文化会館ほか)

(3) 成果物について

〈印刷物〉

- ・ポスター B2版 カラー 1,000枚
- ・チラシ A4版 両面カラー 20,000枚
- ・6館展覧会のみどころパンフレット
A3二つ折り(A4 4頁)全面カラー 6,000部
- ・スタンプラリー台紙 A2版 両面カラー 20,000枚
- 〈街頭看板〉1800×900mm 10枚 6館及び鳥取市内4カ所に掲示
- 〈報告書〉「とっとり江戸時代絵巻めぐり」実施報告書 600部

(4) 参加者の反応

○鳥取県立博物館

- ・来館者の満足度は高かった(アンケートで89%が「良かった」「大変良かった」と回答)。
- ・はじめて来館した人が多かった(アンケートで21%)。
- ・「鳥取藩のことが良くわかった」「藩政資料が大量に公開され、よく残っていたと感心した」「たくさん展示されていて満足できた」などの感想を多くいただいた。

○鳥取市歴史博物館

- ・「歴史・美術ファン」や観光客には大いに歓迎され、事業継続を望む声は大きかったように思われる。

○仁風閣

- ・多くの方々の好評を得た。

○渡辺美術館

- ・初の連携事業の試みは入館者から非常に好評でよい催しであった。今後も続けてほしいという意見が多数聞かれた。
- ・学芸員が案内する鳥取めぐりも好評であった。地元の歴史を知ってもらう意味からも範囲を拡げ、年間を通してやってほしいという声も聞かれた。

○鳥取民芸美術館

- ・はじめてご来館くださった方が多い。

○荒木又右衛門遺品館

- ・今回、初めて特別展「荒木又右衛門の錦絵・瓦版」を開催して、拝観者には好評いただいた。期間延長する程の反響があったのは収穫である。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果 …… 参加各館による評価

○鳥取県立博物館

① 6館の連携意識の醸成

近隣にありながら互いによく知らなかった6館が、一緒に事業を行うことによって相互理解を深め、今後もさまざまな形で連携しようという意識が生まれた。

② 博物館以外の諸機関との連携強化

行政の観光部局や観光連盟などに働きかけ、それらの持つルートで事業を広報いただいた。博物館単独では出来ない多様な広報が行えたと同時に、観光関係者へ博物館への理解が高まった。

また、商工会議所、青年会議所、商店連合会などに働きかけ、各団体が実施する事業の広報に相互乗り入れしてPRを行った。

③ マスコミの注目度の高まり

連携事業として行うことにより、マスコミが注目し、取り上げられる機会が多かった。

例) 地元紙へ展覧会紹介の連載記事掲載、NHK「おはよう日本」で放送

④ 市民との協力関係

町づくりや文化財関係の市民団体、及び町内会、公民館に協力を呼びかけ、ボランティアとして事業を手伝っていただいた。

例) ポスター貼ります隊、城下町めぐりに観光ボランティアの参加

○鳥取市歴史博物館

- ・「入館者数」という点で言えば、本事業により実際どの程度プラス効果があったのかを示すものではなく、「費用対効果」は未知であるが、「歴史・美術ファン」や観光客には大いに歓迎され、事業継続を望む声は大きかったように思われる。

○仁風閣

- ・入館者も、例年の1ヶ月間より約2千名程多く、展示会による効果が認められた。

○渡辺美術館

- ・初の連携事業の試みは入館者から非常に好評でよい催しであった。

○鳥取民芸美術館

- ・各館が江戸時代をテーマに重複することなく多様な内容で展覧会を開催でき、鳥取の江戸文化をご紹介する上で、一館だけでは成し得ない企画をお客様にご提供できた。

○荒木又右衛門遺品館

- ・期間延長する程の反響があったのは収穫である。